

創生総合戦略 芦屋市行政評価委員会による外部評価結果

1 外部評価の実施について

(1) 委員会委員名簿

役 職	委 員 名	所 属
委員長	はやし まさ ひこ 林 昌 彦	兵庫県立大学大学院会計研究科 教授（研究科長）
副委員長	てら み よう こ 寺 見 陽 子	神戸松蔭女子学院大学人間科学部 文学研究科・子ども発達学科 教授
委員	お がわ けん いち 小 川 賢 一	三井住友銀行公共・金融法人部 部長
委員	き むら ゆう こ 木 村 祐 子	芦屋市商工会女性部 部長
委員	こう つき とし こ 上 月 敏 子	大阪体育大学教育学部 准教授
委員	むら かみ つよし 村 上 健	芦屋市コミュニティ・スクール連絡協議会 副会長

(2) 委員会開催日程

回	日 程	内 容
第1回	平成30年7月30日（月）	委員委嘱，委員長及び副委員長選出 創生総合戦略に関する取組について
第2回	平成30年8月6日（月）	創生総合戦略に関する評価について

(3) 評価対象とした事業

別添「芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について」のとおり。

2 外部評価結果について

(1) 総評

ここでの評価は、事業終了後に行う結果の判定ではなく、事業の改善に資する意見を述べることを目的としている。全体を通じて強調したいことは、次の点である。

ア 好循環をもたらす

人口構成の変化や市民ニーズの変化に対処するという課題に取り組むためには、市民の参画と協働によって事業を進める必要がある。その手掛りを、プロジェクト・チーム方式で取り組んだ「宮塚公園の改修」及び「全世代の居場所づくり」に見出すことができる。それをモデル化すると、①明確な目標を設定し、②組織横断的なプロジェクト・チームを編成するとともに、③既存の関係を越えた、多様な主体とのネットワークを形成し、協議を重ねることを通じて、④目標を達成するとともに、⑤各主体の力量を高めるという効果が得られ、さらに、⑥そのことが次の取組の糸口になるとともに、⑦新たな主体の参加を得て、⑧再設定された目標のもとで活動が継続される、という好循環の形成である。具体的に言うと、「宮塚公園の改修」では、工事完了後に周辺地区をブランディングエリアとして整備する計画であり、その一環として旧宮塚町住宅をリノベーションして「女性が輝くまち 芦屋」プロジェクトの ASHIYA RESUME 事業の活動拠点等として活用すること、「全世代の居場所づくり」では、プロジェクト・チームに参加した企業が新たに「キッズスクエア事業」の体験プログラム実施協力団体になったことが参考になる。人が育ち、成果が上がる仕組みをつくるには、このような好循環が欠かせないということを念頭に置く必要がある。

イ 地域の魅力をつくる

都市ブランド価値の形成は、様々な取組によって特色ある地域づくりを進めるとともに、その魅力を戦略的に一長期的視野のもと総合的な観点から資源を活用する一内外に情報発信するシティプロモーションによって達成される。すなわち、シティプロモーションを推進する上で鍵となるのは、実際に成果を上げることであり、そのような取組に係る活動が魅力的なコンテンツ(情報の内容)になる。そして、巧みな情報発信には、活動を促進する効果を期待できる。このような相乗効果を生み出すことを心掛けていただきたい。

ウ 子育て支援と女性活躍推進を両輪とする

核家族化した社会で子育て世代の負担を軽減し、女性が活躍できる社会にするには、地域全体で出生期から乳幼児期、就学期まで切れ目なく支援する仕組みをつくり、子育てと仕事の両立を図る一方、再就業や起業を支援する必要がある。子育て支援については、待機児童の解消に向けて保育所等利用定員を拡大したこと、「キッズスクエア事業」を市内全8小学校で実施するに至ったこと、「放課後児童健全育成(学童保育)事業」を待機児童の居場所づくりを目的として夏休み期間中の幼稚園で実施したことが評価できる。引き続き、市民の理解を得て事業を拡充することを期待する。他方、再就業や起業の支援については、「女性が輝くまち 芦屋」プロジェクトはまだ緒に就いたばかりであり、十分な成果を上げるに至ってはいない。最重要課題の一つであるとの認識に立ち、引き続き努力を傾注していただきたい。

(2) 事業評価

基本目標	<p>1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する</p> <p>恵まれた自然環境や交通の利便性などの立地条件に加え、本市の特徴であるまちなみを維持・保全し、更に清潔で美しく、安全なまちづくりを進めていくことで、今ある魅力を堅持しながら、住宅都市としての機能や付加価値を高め、本市の良さを引き続き継承します。</p>					
数値目標	項目	H26	H27	H28	H29	目標 (H31)
	人口の社会増（人）	185	△309	△95	299	3,200以上 (H27～H31)
	市民の定住意向（%）	84.7	-	-	83.9	90.0
外部評価意見	<p>(1) 良質な住まい・住環境の形成</p> <p>1 景観施策の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 屋外広告物は、単に撤去すればいいものではなく、芦屋のブランド力向上に向けて、市民にその目的が浸透していくことが必要。 ・ 屋外広告物の施策の推進には関係者と情報の共有を図り、ガイドラインの充実や具体事例の紹介などにより不安を払しょくする工夫をしていただきたい。 ・ 公共サインの設置や屋外広告物条例における補助限度額の引き上げの効果を検証すること。 <p>2 住宅都市の活性化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 宮塚公園の改修を契機に地域でのネットワークづくりや、組織横断的にプロジェクト・チームで取り組んだ一連の取組は評価できるため、今後も進められたい。 ・ 宮塚公園の手法を参考に、他の公園でも利用目的を検討したうえでの改修に努められたい。 <p>3 シティプロモーションの推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋の特色である給食についてアピールしていることは評価できる。 ・ 情報発信の元となる活動を促進していくことがシティプロモーションになるので、その仕組みづくりを進められたい。 ・ 市民にもシティプロモーションの内容を浸透させることが必要であり、市民の参加者を増やす好循環を作り出すよう取り組むこと。 ・ シティプロモーションの効果検証を行うこと。 <p>(2) 地域における医療・福祉の充実</p> <p>4 全世代交流の居場所づくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ イベント開催を目的とするのではなく、継続して取り組むことが必要であり、仕組みを検討すること。 ・ 「こえる場！」の取組は交流の場でもあり、企業にとってもメリットがある。 ・ 企画段階から関係者と協働する仕組みづくりが必要である。 ・ 従来の行政手法とは異なり、若手職員などが地域に出て対話することが必要である。 ・ 参加者の固定によるマンネリ化を防ぐため、オープンにする必要がある。 ・ キッズスクエアでのプログラム充実など、他の事業に繋がったことを評価する。 ・ 全世代交流から子育てで支援ができるような取組を検討されたい。 <p>(3) 安全・安心なまちづくりの推進</p> <p>5 防災・防犯の取組</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災に関しては、行政が主体的な役割を果たし、災害に関する市民への意識づけを行うこと。 ・ 防災に関するハードの整備には限界があり、啓発を進めていく必要がある。 ・ スピーカーについては、効果を見極めて配置すること。また、他の伝達手段を複合的に組み合わせ、効果的な手法を検討すること。 					

基本目標	<p>2 若い世代の子育ての希望をかなえる</p> <p>妊娠・出産期から切れ目のない子育て支援のため、子どもや子育て家庭の置かれた状況に応じて支援の充実を図るとともに、学校教育の充実を目指します。</p>					
数値目標	項目	H26	H27	H28	H29	目標 (H31)
	若い世代(20～40代)の幸福感(点)	7.1	-	-	7.2	8.0
	出生数(人)	783	725	669	694	783
	待機児童数(人)	131	128	109	139	0
外部評価意見	<p>(1) 妊娠・出産・子育ての支援</p> <p>6 子育ての支援</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 乳幼児から小学生まで、切れ目のない支援の仕組みづくりが必要。 ・ キッズスクエアについて、全児童を対象とすることは評価できるが、働きながら子育てできる環境整備に努められたい。 ・ 放課後児童健全育成事業について評価できるが、少子高齢化を見据えながらも前向きに進めてもらいたい。 ・ 小学校区ごとに課題等を把握し、情報共有を行うなど仕組みづくりが必要である。 ・ 「市立幼稚園・保育所のあり方」について、引き続き丁寧な説明を求める。 <p>7 女性活躍の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 芦屋市の特色として起業意欲が高く、良い場所が提供されれば希望者が出てくる可能性は高い。 ・ 女性活躍の推進として、起業・就労支援だけではなく、子育ての状況など全体を考慮して事業を進めること。 					
	<p>(2) 教育環境の充実</p> <p>8 教育環境の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 食育事業について、プロモーションなど各事業との連携により実施され、芦屋の給食の魅力が向上しており、評価する。 ・ 体力向上の取組としてイベントを充実させたことは評価する。また、日常的な取組が重要であり、幼児期からの支援が必要である。 ・ 読書のまちを推進する事業に継続して取り組んでいることはとても評価できる。 ・ 図書館の大規模改修をきっかけとした魅力ある図書館を検討されたい。 ・ 小学校の英語教科化に伴う学校図書館の活用を検討されたい。 					
外部評価意見	<p>その他 総合戦略の推進に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 市民・関係団体との効果的な情報共有を検討されたい。 ・ プロジェクト・チームの成功事例を他の事業に広めていくこと。 ・ 斬新なアイデアで行政にしかできないことに取り組まれたい。 					

重要業績評価指標〔KPI〕	1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する	H26	H27	H28	H29	めざす値 (H31)	
	(1) 良質な住まい・住環境の形成						
	地域におけるまちなみなどの景観の美しさに関して「かなり良い」又は「やや良い」と回答した市民の割合 (%)	84.7	-	-	84.5	90.0	
	芦屋市屋外広告物条例の規制内容に適合する屋外広告物の割合 (%)	62.4 (見込数)	-	-	-	82.5	
	無電柱化率 (%)	12.4	12.4	12.4	12.4	14.1	
	オープンガーデン参加者数 (人/年)	81	107	121	127	125	
	市街地 (奥池地区除く) 緑被率 (%)	22.0 (H17)	25.7	-	-	27.6	
	(2) 地域における医療・福祉の充実						
	紹介率 (他の医療機関から市立芦屋病院に紹介された患者の割合) (%)	37.0	40.4	41.0	41.6	47.8	
	逆紹介率 (市立芦屋病院から他の医療機関に紹介した患者の割合) (%)	64.9	63.9	55.1	76.9	69.2	
認定救急救命士の救急業務活動従事者数 (人)	17	18	22	23	28		
シルバー人材センターの会員数 (件/年)	1,004	1,054	1,092	1,109	1,254		
高齢者生活支援センターの新規相談者数 (人/年)	1,201	1,087	1,196	975	1,264		
地域見まもりネット事業の加入事業者数 (件/年)	63	132	139	126	94		
(3) 安全・安心なまちづくりの推進							
民間事業者との災害時における応援協定締結数 (件)	20	22	26	34	37		
住宅の耐震化率 (%)	93.3 (H25)	-	-	-	95.6		
個別避難支援計画策定数 (件)	1,380	2,186	2,289	2,136	2,980		
消防団員数 (人)	98	100	99	98	108		
街頭犯罪・侵入犯罪の認知件数 (件/年)	445	406	392	334	266		
市が管理する街灯のLED化率 (%)	7.7	17.4	30.9	38.1	37.4		

重要業績評価指標〔KPI〕	2 若い世代の子育ての希望をかなえる	H26	H27	H28	H29	めざす値 (H31)	
	(1) 妊娠・出産・子育ての支援						
	待機児童数 (人)	131	128	109	139	0	
	病児・病後児保育実施箇所数 (か所)	1	1	1	1	2	
	放課後児童健全育成事業の待機児童数 (人)	0	0	22	30	0	
	保健センターでの母子健康相談の人数 (人/年)	2,598	2,141	2,631	3,024	2,720	
	子育てセンターにおける「つどいのひろば」などに参加する親子の数 (人/年)	53,313	52,565	52,816	51,849	55,813	
	公立の全幼稚園での未就園児とその保護者に対する施設開放実施回数 (回/年)	234	307	873	900	304	
	(2) 教育環境の充実						
	児童生徒一人あたりの学校図書館における図書貸出し冊数 (冊/年)	小学校	59.7	63.5	64.8	65.9	64.2
中学校		14.6	15.3	18.2	20.9	16.7	
小学校の英語学習で、「これからも英語を使ってみたい」と答えた児童の割合 (%)	92.1	92.2	94.0	94.0	92.1		
中学校の数学で、「授業がよくわかる」と答えた生徒の割合 (%)	80.0	72.5	73.6	73.2	80.0		
通学路合同点検において確認された危険箇所 (市が実施主体となる箇所のみ) の改善割合 (%)	100.0	-	-	-	100.0		
あしやキッズスクエア、校庭開放、子ども教室の開催日数 (日/年)	1,060	1,716	1,560	1,766	1,920		
将来の夢や目標を持っている児童生徒の割合 (%)	小学校	86.0	86.4	85.0	86.8	90.0	
	中学校	71.7	71.8	70.6	72.0	80.0	

芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について

基本目標	主な取組	評価対象事業 (地方創生関連交付金を活用した取組や本市での特徴的な事業, プロジェクトチームによる企画立案などを選定)
1 安全・安心で良好な 住宅地としての 魅力を高め、継承する	(1) 良質な住まい・住環境の 形成	1 景観施策の推進 2 住宅都市の活性化 3 シティプロモーションの推進
	(2) 地域における医療・福祉 の充実	4 全世代交流の居場所づくり
	(3) 安全・安心なまちづくり の推進	5 防災・防犯の取組
2 若い世代の子育ての 希望をかなえる	(1) 妊娠・出産・子育ての 支援	6 子育ての支援 7 女性活躍の推進
	(2) 教育環境の充実	8 教育環境の充実

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	景観施策の推進		事業 No	1																				
目的	美しい景観により良質な住まい・住環境の形成を目指す。																							
実施内容	<p>公共サインの設置</p> <p>平成 28 年度策定の「芦屋市公共サイン計画」に基づき、JR 芦屋駅と阪神芦屋駅間を結ぶエリアをモデル地区と定めて、4 基公共サインを設置した。平成 31 年度までの 3 年間合計で大小 82 基を設置する予定。 公共サインの設置費：5,184 千円</p> <p>【課題】まちの回遊性向上と景観に配慮したサイン配置を両立する必要がある。 【方向性】JR 芦屋駅周辺に公共サインを設置する。また、道路上のサインの統一化を図る。</p>  <p>屋外広告物条例の推進</p> <p>芦屋市屋外広告物条例の基準に適合しない屋外広告物を掲出している広告主に対して、文書や個別訪問等により条例内容の周知を行った。 また、事業主にとってより活用しやすいよう補助の限度額を右図のとおり引き上げた。 (補助制度申請件数 平成 28 年度：7 件、平成 29 年度：39 件)</p> <table border="1" data-bbox="1272 740 2107 895"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">平成31年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> <th colspan="2">平成33年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> </tr> <tr> <th></th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>改修費用</td> <td>2分の1</td> <td>100万円→200万円</td> <td>3分の1</td> <td>50万円</td> </tr> <tr> <td>撤去費用</td> <td>3分の2</td> <td>100万円→200万円</td> <td>2分の1</td> <td>50万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】基準に適合しない屋外広告物の早期改修、撤去を促進するよう、補助制度の周知に努める。 【方向性】補助制度を活用できる広告主に対し、より丁寧な説明を行い、理解を得るよう努める。また、適宜に現場調査を行い、違反物件に対し適切に指導する。</p> <p>無電柱化事業の推進</p> <p>芦屋市無電柱化推進計画の策定作業及び芦屋市無電柱化推進条例の制定作業に着手した。 また、さくら参道における電線共同溝整備工事にも着手した。(無電柱化率 12.4%) 無電柱化の工事費：66,213 千円</p> <p>【課題】無電柱化事業における関係機関及び沿道住民との丁寧な協議が必要である。 【方向性】芦屋市無電柱化推進計画の策定及び公表と芦屋市無電柱化推進条例の制定を行う。 また、無電柱化事業の実施に向けて、課題の整理、共有化を図り、実施手法を定める。</p>  <p>〔無電柱化前〕 〔無電柱化後(イメージ)〕</p>					平成31年6月30日までに補助事業を完了させるもの		平成33年6月30日までに補助事業を完了させるもの			補助率	限度額	補助率	限度額	改修費用	2分の1	100万円→200万円	3分の1	50万円	撤去費用	3分の2	100万円→200万円	2分の1	50万円
	平成31年6月30日までに補助事業を完了させるもの		平成33年6月30日までに補助事業を完了させるもの																					
	補助率	限度額	補助率	限度額																				
改修費用	2分の1	100万円→200万円	3分の1	50万円																				
撤去費用	3分の2	100万円→200万円	2分の1	50万円																				

(280)

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	住宅都市の活性化		事業 No	2	
目的	住宅都市としての魅力を一層高める				
実施内容	<p>宮塚公園の改修</p> <p>通りに面した憩える場所とすることで、地域コミュニティの創出を図り、公園などの公共施設やお洒落な店舗が並ぶ通りの魅力を向上させるため、公園の利活用促進や周辺地域の活性化について地域と協議を重ね、オープンスペースとなるよう宮塚公園の改修を行った。</p> <p>宮塚公園改修費：22,771 千円</p> <p>【方向性】商業施設が集まる宮塚公園周辺を含む地域をブランディングエリアとし、更なる賑わいなど、新たな価値の創出を図っていく。 当該エリア内にある旧宮塚町住宅を女性活躍及び情報発信の場として、また、市民活動センターを市民活動の拠点としてそれぞれ改修を行う。</p> <p>空き家の活用</p> <p>戸建て空き家に対する所有者意向調査を実施し、3戸から公的活用が可能である旨の回答を得たことから、ストック活用に関するプロジェクト・チームで組織横断的に活用方法を協議・検討を行ったが、立地等の条件から公的活用は困難であると結論付けた。 この検討結果を踏まえ、民間による活用を促すため、空き家を活用しようとする者に対し、一定額の補助を行う空き家活用支援事業の平成30年度実施に向けて取り組んだ。</p> <p>空き家の意向調査費：295 千円</p> <p>【課題】行政における空き家の利活用について、地域交流拠点だけではなく、定住を目的とした取組を行う必要がある。 【方向性】良質な住宅ストックが有効活用されるよう、空き家活用支援事業の補助制度の周知を行う。 また、空き家に対する適切な維持管理に関する啓発や利活用とともに、各施策との連携など様々な視点からの空き家の活用を進める。</p>	改修前		改修後	

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	シティプロモーションの推進	事業 No	3
目的	本市の魅力を各施策のターゲット層に効果的に発信することで流入人口の増加を目指す。		
実施内容	<p>「モダニズム」 & 「ネイチャー」による2市1島プロモーション事業 地方創生推進交付金対象事業（交付金 12,687 千円）</p> <p>「島&都市デュアル」事業 プロモーション事業負担金：19,899 千円 神戸市，洲本市，淡路市と連携し，「都市の文化と島の豊かさが両立できるライフスタイル」を各市の市民で構成された暮らしナビゲーターが中心となり，旅の企画やレポート記事の発信をWEBサイトやSNSを通じて行った。</p> <p>また，首都圏のメディアや首都圏を中心とした移住関心者に向けた暮らしツアーを実施した。移住関心者に向けたツアーでは，「子育て・スタートアップコース」「地域コミュニティコース」「こだわり島暮らしコース」と3つのコースに分け合計23名のかたに参加いただき，地域での生活体験や地域住民との交流を図った。今後は，首都圏を中心に移住に向けた発信をより推進していく必要がある。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div> <p>首都圏における移住促進事業 業務委託費：797 千円 二子玉川葛屋家電にて市内の2事業者とともに，移住に向けた魅力発信事業を展開した。</p> <p>市内事業者の商品販売等を通じて集まった顧客に対して，PR動画や給食レシピ本，イン스타그램投稿等による写真の展示を通じて芦屋市の魅力発信を行った。</p> <p>首都圏にお住まいのかたに対して芦屋市への高級感だけではない好意的なイメージが醸成できた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;">   </div>		

(282)

芦屋市シティプロモーション事業

プロモーション事業委託費：36,806千円

市民のシビックプライドの醸成及び本市の住みやすさの認知度向上を目的に以下の事業を実施した。

- ・インスタグラム投稿キャンペーン：3回に分けて実施。応募投稿数1,210枚。フォロワー数490人。
- ・芦屋市シティプロモーション応援者募集：登録者にイベント情報等を発信。350名登録。
- ・ママ・パパのための料理セミナー：市内のシェフによる講座及び小学校の栄養士による（給食レシピ本）料理講習。福祉センターにて2回。芦屋大学にて2回実施。
- ・SNS映えフォトセミナー&撮影会：高座の滝・総合公園・モノリスにて実施。セミナー実施後にインスタグラム投稿数の増加へと繋がった。
- ・PR動画「Sound of ASHIYA」公開：43名の市民が出演。
東急お知らせモニター及び阪急ターミナルビジョン「BIGMAN」にて放映。
- ・親子で楽しむ芦屋クラシック体験：芦屋市立美術博物館にてクラシックコンサート及び楽器体験を実施。定員300名に対して1,041名の応募。
- ・書籍「芦屋～あしやを歩く本～」の制作：平成30年5月28日(月)発売。合計210件の施設・店舗等取材し掲載。



阪神間連携ブランド発信事業

事業費：1,464千円

神戸市、西宮市、阪神電気鉄道と連携し「阪神間モダニズム」によって醸成されたこの地域特有の文化を、地域の魅力として発信することを目的に、スイーツスタンプラリー及び各市での関連イベントを実施。3市でのスタンプラリー配布数24,000部。

芦屋市では、①芦屋モノリスでの「レトロティパーティー&フォトセッション」②ラポルテホールでの「コーヒーの魅力」と「スイーツマルシェ」を実施。イベント参加者134名。マルシェ出展数14団体。

【シティプロモーションの方向性】

- ・首都圏においては、市内事業者と連携しイベントを実施することで、本市の利便性・住みやすさの認知度向上を図る。
- ・市内でのイベントや「あしやを歩く本 芦屋」等のコンテンツを活用し、市民のシビックプライドの醸成を行ない、SNS等を通じて情報提供を行うことで市外から本市を訪れる機会の増加を目指す。



基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(2) 地域における医療・福祉の充実

事業	全世代交流の居場所づくり		事業 No	4
目的	全世代が交流し、地域の課題を地域で解決する仕組みを推進する。			
実施内容	<p>全世代の居場所づくり</p> <p>全世代が住みよいまちづくりに向け、全世代交流に向けたプロジェクト・チームを設置して、民間企業等の多様な主体との協議の場である「こえる場！（33 団体 58 名）」を新たに開催し、キッズスクエアのプログラムの充実など新たなアイデアの実現に取り組んだ。</p> <p>また、「こえる場！」に参画した団体とともに、イベント「芦屋なんでもフェスタ」を企画した。（イベント自体は荒天により中止）</p> <p>【課題】地域発信型ネットワークに参画する市民との協働を図る。</p> <p>【方向性】「こえる場！」の継続による新たなアイデアの実現を仕組み化できるよう検討し、企画を行う。</p>			
	<p>ひとり一役活動の実施</p> <p>平成 29 年度より介護保険施設や高齢者の居宅において、ボランティア活動を行う方を「ひとり一役ワーカー」として登録し、活動によってポイントを付与する制度であるひとり一役活動を新たに実施した。（平成 29 年度末時点で、ひとり一役ワーカー：123 名、受け入れ施設：24 か所） 業務委託費：7,517 千円</p> <p>【課題】65 歳未満の登録が少ないため、周知・啓発が必要である。</p> <p>【方向性】制度の周知等により、若い世代の活動者、担い手を増やしていく。</p>			

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(3) 安全・安心なまちづくりの推進

事業	防災・防犯の取組		事業 No	5																
目的	防災力・防犯力を高め、安全・安心なまちづくりを推進する。																			
実施内容	<p>防犯カメラの設置</p> <p>犯罪の抑止を目的とし、通学路を中心に他の施策（街灯を明るくする・樹木を剪定するなど）を講じてもお不安感がぬぐえず、事案が複数回発生し得る様な個所を優先的に防犯カメラの設置をする。平成 28 年度の小学校区ごとの意見交換会の意見を反映させ、防犯カメラを新たに 20 台設置した。（計 100 台）</p> <p>防犯カメラ設置費：9,103 千円</p> <p>【課題】防犯カメラの有効性について、確認し、今後の配置について検討する。</p> <p>【方向性】防犯については、引き続き芦屋警察やまちづくり防犯グループ等関係機関と連携し犯罪抑止に努める。</p> <p>防犯カメラについては、通学路合同点検などの機会を捉え、設置した防犯カメラの有効性についての意見を聞き、今後の設置に反映させる。</p> <p>公共施設への Wi-Fi 導入</p> <p>災害時でも必要な情報を入手・発信しやすい環境を整備するため、市内の避難所をはじめ、公共施設に誰でも無料で使用できる公衆無線 LAN スポットを 27 拠点設置した。</p> <p>Wi-Fi 導入費：5,393 千円</p> <p>※この他、災害時に避難所となっている市内小中学校（11 校）に無線アクセスポイントを設置した。</p> <p>【課題】建物の構造等により、通信強度の弱い施設等が存在する。</p> <p>【方向性】平成 29 年度をもって一定の整備は終えたものと考えているが、</p> <div data-bbox="1227 1002 1352 1123" style="float: right; text-align: center;">  </div> <p>改修スケジュール等の関係で未整備となっている施設や、新規要望のあった施設については、平成 30 年度に整備を行う。</p> <table border="1" data-bbox="1393 852 2112 1107" style="float: right; margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th>避難所施設 (19 ヶ所)</th> <th>避難所以外の施設 (8 ヶ所)</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地区集会所 12 ヶ所</td> <td>本庁舎北館・南館</td> </tr> <tr> <td>保健福祉センター(北館・南館)</td> <td>潮芦屋交流センター</td> </tr> <tr> <td>体育館・青少年センター</td> <td>市民活動センター</td> </tr> <tr> <td>本庁舎東館</td> <td>芦屋公園テニスコート</td> </tr> <tr> <td>上宮川文化センター</td> <td>谷崎潤一郎記念館</td> </tr> <tr> <td>市民センター</td> <td>美術博物館</td> </tr> <tr> <td>総合公園管理事務所</td> <td>富田砕花旧居</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】県の急傾斜地崩壊対策事業による対策工事が早期に着手されるように、県への要望を継続して行う。</p> <p>【方向性】市有地においては、対策工事を実施し、その他の区域については、県の急傾斜地崩壊対策事業の周知を進める。また、防災情報マップ等による指定区域の周知及び災害発生時の早期避難の啓発を行う。</p> <p>土砂災害特別警戒区域等への対策</p> <p>土砂災害特別警戒区域等の指定に伴い、兵庫県と芦屋市の共同により住民説明会を 4 回実施した。</p> <p>土砂災害特別警戒区域の指定に伴い建物の移転及び改修の補助金要綱を作成した。</p>				避難所施設 (19 ヶ所)	避難所以外の施設 (8 ヶ所)	地区集会所 12 ヶ所	本庁舎北館・南館	保健福祉センター(北館・南館)	潮芦屋交流センター	体育館・青少年センター	市民活動センター	本庁舎東館	芦屋公園テニスコート	上宮川文化センター	谷崎潤一郎記念館	市民センター	美術博物館	総合公園管理事務所	富田砕花旧居
避難所施設 (19 ヶ所)	避難所以外の施設 (8 ヶ所)																			
地区集会所 12 ヶ所	本庁舎北館・南館																			
保健福祉センター(北館・南館)	潮芦屋交流センター																			
体育館・青少年センター	市民活動センター																			
本庁舎東館	芦屋公園テニスコート																			
上宮川文化センター	谷崎潤一郎記念館																			
市民センター	美術博物館																			
総合公園管理事務所	富田砕花旧居																			

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	子育ての支援	事業 No	6
目的	子育てしやすいまちづくりに向け、子育て世代の希望をかなえる施策を推進する。		
実施内容	<p>キッズスクエア事業の充実</p> <p>打出浜小学校、岩園小学校において新たに事業を開設し、市内全 8 小学校での実施に至った。(平成 29 年度登録児童数：2,338 名、児童登録率：50.6%)</p> <p>事業費：28,773 千円</p> <p>【課題】小学校でのキッズスクエア実施のための場所を確保する必要がある。また、私立小学校に通う児童の参加について、検討を要する。</p> <p>【方向性】企業との連携により、一層魅力的なプログラムを実施し、参加を促進する。トータルコーディネーターを配置し、各小学校やマネージャーとの連携を図る。</p> <p>今後も地域との連携を深め持続可能性をさらに高めていく。</p> <p>夏休みの放課後児童健全育成(学童保育)事業の実施</p> <p>子どもの居場所づくりとして、夏休みに精道幼稚園で民間事業者の運営により実施した。(開所日数 29 日、出席児童数 293 名)</p> <p>委託費：1,262 千円</p> <p>【課題】市内一か所で実施したが、保護者の希望は校区内運営であった。</p> <p>【方向性】放課後児童健全育成事業として、民間活力の導入を図る。</p> <p>「市立幼稚園・保育所のあり方」の推進</p> <p>平成 28 年度に引き続き住民説明会を開催し、いただいたさまざまな意見等を踏まえ「市立幼稚園・保育所のあり方」をより良くするため一部変更を行った。(説明会 27 回開催。変更内容は以下の通り：</p> <p>駐車場、スクールゾーン等の課題の解決を検討し、市立朝日ヶ丘幼稚園敷地に私立幼保連携型認定こども園を誘致する。</p> <p>市立打出保育所の民間移管時期を平成 34 年 4 月に変更する。</p> <p>伊勢幼稚園と新浜保育所を統合し定員規模 186 人の市立幼保連携型認定こども園とし子育て支援施設を併設する。宮川幼稚園は引き続き幼稚園としての運営を行う。</p> <p>市立伊勢幼稚園敷地に私立幼保連携型認定こども園を誘致する。)</p>		

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	女性活躍の推進	事業 No	7
目的	女性が様々な場面で、その能力や個性を発揮し、活躍できる社会の実現に向け、施策を推進する。		
実施内容	<p>「女性が輝くまち 芦屋」プロジェクトの実施 地方創生推進交付金対象事業（交付金 6,599 千円）</p> <p>子育て世代も含めた女性の活躍を促すため、「女性が輝くまち 芦屋」の実現を目指した ASHIYA RESUME 事業を開始し、以下の取組を行った。</p> <div style="text-align: right;">  </div> <p>リサーチ</p> <p>施策の方向性を決定するため、対象となる女性に対し、主に働き方に関するアンケートやグループインタビューを実施した。また、市内事業者を個別訪問し、事業説明を行ない、協力事業者には、現場での女性活躍の把握を目的としてヒアリング調査を実施した。</p> <p>プロモーション</p> <p>プロジェクトネーミングとシンボルロゴを作成し、市民に広く事業をPRするとともに、女性活躍に関する情報提供やイベントの告知等のため、特設ホームページを開設し、周知に努めた。</p> <p>イベントの実施</p> <p>キックオフとして市内事業者を中心に説明&交流会「ASHIYA RESUME meeting」（85名参加）</p> <p>「さらに新しい私と出会う。」をテーマにセミナー&相談会「ASHIYA RESUME matching」を実施した。（93名参加）</p> <p>「新しい働き方」の発見を目的として、「ASHIYA RESUME workshop」起業・創業編（29名参加）再就職・再就労編（35名参加）等を開催した。</p> <p>プロジェクトへの参加希望者の登録促進</p> <p>プロジェクトへの参加希望者として、就業・起業希望者 132名の登録を得た。</p> <p>委託費等：13,389 千円</p> <p>【課題】 プロジェクトの認知度及び興味関心を高め、登録・協力者を増やすこと並びに起業・再就労などの結果につながる実践的な支援を行なうこと</p> <p>【方向性】 アンケート調査等から起業への意識が高いことが特徴であり、引き続き ASHIYA RESUME 事業を実施するとともに、関係課・事業者等と連携して女性の起業・就労支援等に関する事業及び情報発信の場を整備する。</p>		

基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

(2) 教育環境の充実

事業	教育環境の充実		事業 No	8								
目的	特色ある教育を行い、教育環境の一層の充実を図る。											
実施内容	食育の取組											
	<p>本市の学校給食の魅力为全国に発信するため、cookpadに「芦屋の学校給食」のページを開設し、栄養価にも考慮した学校給食のレシピを紹介した。保護者や市外のかた向けに市内のシェフによる講座及び小学校の栄養士による書籍「芦屋の給食」掲載レシピの料理セミナーを実施した。(参加者：約135名) また、「味覚の授業」を引き続き実施した。</p> <p>【方向性】引き続き地産地消週間や料理セミナーなどを通じて食育を進める。また、山手中学校での給食を平成30年度中に開始する。</p>											
	体力向上の取組											
	<p>体を動かすきっかけづくりとなるよう、平成28年度に引き続き小学校スポーツ交流会を実施するとともに、新たに中学校を対象としたスポーツ交流会を実施した。</p> <table border="1" data-bbox="965 708 1570 820"> <thead> <tr> <th></th> <th>対象</th> <th>内容</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>小学校</td> <td>5年生</td> <td>フラッグフットボール</td> </tr> <tr> <td>中学校</td> <td>1年生</td> <td>陸上競技</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】全国体力・運動能力調査においては、全国平均に満たない種目が多く、体を動かす機会の充実が必要である。</p> <p>【方向性】関係機関との連携を図りながら、市内全体の幼児児童生徒の体力向上施策を進める。</p>					対象	内容	小学校	5年生	フラッグフットボール	中学校	1年生
	対象	内容										
小学校	5年生	フラッグフットボール										
中学校	1年生	陸上競技										
読書のまちを推進する取組												
<p>読書のまちづくり推進に向けたプロジェクト・チームを設置し、既存の読書関連事業やイベントの見直しを行った。また、図書館、美術博物館、谷崎潤一郎記念館の連携により、屋外で読書を楽しむイベントとして「niwa-doku」を実施した。(参加者：約560名)</p>												
<p>【方向性】引き続き、関係機関との連携を深め、公立図書館・学校図書館等の読書環境の整備を進める。また、平成30年度は図書館本館大規模改修工事を実施する。</p>												

